

[公演ノート]

馬場眞二（バリトン）リサイタル報告

A Report of SHINJI BABA's (Baritone) Recital

馬場眞二

Shinji Baba

1. はじめに

2017年9月7日（木）、大分市iichiko総合文化センター音の泉ホール、2017年9月13日（水）、銀座ヤマハホールにて、ソロとしては17年ぶりとなるリサイタルを開催した。オペラ公演への出演、所属団体における研究会や公開レッスン受講等を経て、50代半ばを迎えた現時点での演奏技術確認の意味もあり、故郷大分の代表的なコンサートホールと、全国的に響きの良さで定評のあるコンサートホールでソロリサイタルを開催することとした。

2. 演奏会の目的と概要

2.1 目的

2000年7月に東京文化会館で開催した日本演奏連盟主催によるソロリサイタル以降、オペラ全幕公演への出演によるレパートリー拡充を中心課題と考え、所属団体主催及び所属研究会主催の研究発表的なコンサートへの出演による芸術歌曲のレパートリー拡充とを並行するという活動を主軸に行ってきた。50代半ばを迎え、現在までの研究活動の確認、及び今後の研究活動へ向けての方向付けとしてリサイタルを開催することとした。また自身の研究という側面のみで無く、現在指導を行っている学生たちの演奏技術向上の指針とすべく、私が常日頃レッスン室で指導している「舞台発音発声法」による言語表現を用いると、響きの良い実際のホールに於いてどのように客席で聞こえるのかを示す機会となることも目的とした。

2.2 舞台発音発声法

劇場や音楽ホールなどの一定の広さを持つ場所において朗読、演劇、歌唱を行う場合に、客席にお

いて台詞、歌詞が明瞭に聞き取れる発音が必要になる。このために発達したのが「舞台発音発声法」であり、拡声装置の開発されていない時代においては非常に重視されていた。

特に声楽作品に於いては現代に至るまで様々な変遷を経ており、作品の作られた時代や作曲家によって様々な考え方があるが、母音の響きを重視したレガートな歌い方をすることが基本と言える。

2.3 概要

大分でのリサイタル（図1）と東京でのリサイタル（図2）の告知フライヤー、演奏会概要をまとめたものを示す（表1）（表2）。



（図1）大分リサイタルフライヤー

（表1）演奏会概要

第19回大分県民芸術文化祭参加行事 馬場眞二 バリトンリサイタル	日時：2017年9月7日（木）18：30開場 19：00開演 場所：iichiko 総合文化センター 音の泉ホール 入場：一般3,000円、学生1,500円（全席自由）
バリトン独唱	馬場眞二
ピアノ伴奏	前田健治
後 援	大分県、大分県教育委員会、大分県民芸術文化祭実行委員会、大分合同新聞社、大分県芸術文化振興会議、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分



(図2) 東京リサイタルフライヤー

(表2) 演奏会概要

演奏会概要 馬場眞二 バリトンリサイタル	日時：2017年9月13日（水）18：30開場 19：00開演 場所：銀座ヤマハホール 入場：一般3,000円（全席自由）
バリトン独唱	馬場眞二
ピアノ伴奏	森 裕子
後 援	公益財団法人 東京二期会

3. リサイタルの内容

3.1 演奏曲目選曲について

2000年4月、東京二期会の研究活動推奨事業としてスタートした日本歌曲研究会に発足当時より参加し、日本歌曲の解釈と日本語による奏法について研究を行ってきた。並行して、日本オペラ協会にも所属し、舞台における日本語発音発声法として、オーケストラ伴奏によるオペラにおける日本語発声法研究にも取り組んできた。特にここ10年ほどは、芸術歌曲としての日本歌曲における詩の解釈と、それぞれの作品に求められる言語表現方法の違いに着目して、小～中規模ホールにおいて日本語を客席に正しく伝える歌曲演奏法の研究を行っている。その為、本リサイタルにもチクルスの日本歌曲を組み入れることにした。

3.2 プログラム

今回のプログラム選曲に当たっては全体を2部構成とし、それぞれを日本歌曲のチクルスで始め、

ベルカントの歌曲、オペラアリアとした。特にオペラアリアは、カヴァティーナ（cavatina）＋カヴァレッタ（cavalletta）を連続して演奏する本来の形で演奏とした。当初、日本歌曲のチクルスに関して大分、東京共に大中恩作曲の作品のみにする予定であったが、大分の音楽事情に詳しい方々からの助言もあり、大分公演後半の日本歌曲チクルスは中田喜直作曲の作品に入れ換えることとした。

3.2.1 大分版リサイタル

大分でのリサイタル協演は、2012年に大分二期会主催で行ったジョイントリサイタルでもピアノをお願いした前田健治氏にお願いした。演奏会当日は九州地方を台風が直撃したにも関わらず多くの来場があった。演奏曲目は以下の通り。

Program

「五つの現代詩」（大中恩 1924-）

- ・広場（木原孝一 詩）
- ・骨（中原中也 詩）
- ・さすらい（深尾須磨子 詩）
- ・はたらいた人達（室生犀星 詩）
- ・昨日いらっして下さい（室生犀星 詩）

幼い日の夢 *Sogno d'infanzia*（作詩者不明） V. ベッリーニ *Vinzenzo Bellini*（1901-1835）

陽気な水夫 *L'allegro marinaro*（作詩者不明） V. ベッリーニ *Vinzenzo Bellini*

歌劇《清教徒》より “ああ 永遠に君を失ってしまった”

“Ah! per sempre io ti perdei” da 《I Puritani》 V. ベッリーニ *Vinzenzo Bellini*

休 憩

「海四章」中田喜直（1923-2000）

- ・馬車（三好達治 詩）
- ・蟬（三好達治 詩）
- ・沙上（三好達治 詩）
- ・わが耳は（三好達治 詩）

墓に近寄らないで欲しい（J. ヴィットレリ 1749-1835）

Non t'accostare all'urna（Jacopo Vittorelli） G. ヴェルディ *Giuseppe Verdi*（1813-1901）

寂しい部屋で（J. ヴィットレリ 1749-1835）

In solitaria stanza（Jacopo Vittorelli） G. ヴェルディ *Giuseppe Verdi*（1813-1901）

歌劇《椿姫》より “プロヴァンスの海と陸”

“Di Provenza il mar, il suol” da 《La Traviata》 G. ヴェルディ *Giuseppe Verdi*（1813-1901）

3.2.2 東京版リサイタル

東京でのリサイタル協演は、日本歌曲研究会でもピアノを担当しており奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞の受賞経験もある森裕子氏にお願いした。演奏曲目は以下の通り。

Program

「五つの現代詩」 大中恩（1924-）

- ・ 広場（木原孝一 詩）
- ・ 骨（中原中也 詩）
- ・ さすらい（深尾須磨子 詩）
- ・ はたらいた人達（室生犀星 詩）
- ・ 昨日いらっして下さい（室生犀星 詩）

歌劇《清教徒》より “ああ 永遠に君を失ってしまった”

“Ah! per sempre io ti perdei” da 《I Puritani》 V. ベッリーニ Vincenzo Bellini

休 憩

「五つの抒情歌」（大中恩 1924-）

- ・ ふるみち（三木露風 詩）
- ・ 想ひ出の山（浜野ふじ子 詩）
- ・ しぐれに寄する抒情（佐藤春夫 詩）
- ・ おもかげ（光井正子 詩）
- ・ ふるさとの（三木露風 詩）

墓に近寄らないで欲しい（J. ヴィットレリ 1749-1835）

Non t'accostare all'urna（Jacopo Vittorelli） G. ヴェルディ Giuseppe Verdi（1813-1901）

寂しい部屋で（J. ヴィットレリ 1749-1835）

In solitaria stanza（Jacopo Vittorelli） G. ヴェルディ Giuseppe Verdi（1813-1901）

歌劇《椿姫》より “プロヴァンスの海と陸”

“Di Provenza il mar, il suol” da 《La Traviata》 G. ヴェルディ Giuseppe Verdi（1813-1901）

3.3 プログラムノート

大分と東京のリサイタルにおける演奏曲目についてのプログラムノートは下記の通りである。

Program note

「五つの現代詩」 大中恩（1924-）

「五つの現代詩」は1958年に連作歌曲として作曲された。前年に作曲家自身の作品のみを演奏する為に結成した「コールMeg」に関して、バリトン歌手の友竹正則氏の世話になり、友竹氏の誠意ある協力と精力的な活動に感動し、友竹正則氏の為に作曲されたものである。

第1曲「広場」は木原孝一（1922-1979）が1958年に発表した詩集「ある時ある場所」に収められている。

第2曲「骨」は中原中也（1907-1937）の死後1938年に「在りし日の歌」に収められている。制作は詩篇末尾に記載があり、1934年4月28日ということである。

第3曲「さすらい」は深尾須磨子（1888-1974）が1959年に出版した「パリ横町」に収められている。降誕節前夜のクリニャンクール蚤の市を書いたものだが、パリを訪れたことの無い私には楽曲で描かれている状況を想像するしかなかった為、苦勞した作品である。

第4曲「はたらいた人達」は室生犀星（1889-1962）の詩で1949年の制作であるが、今日まで収めた詩集を見つけられなかった。

第5曲「昨日いらっしって下さい」は室生犀星が残した最後の詩集「昨日いらっしってください」に収められており1959年に出版された。

幼い日の夢 Sogno d'infanzia（作詩者不明） V. ベッリーニ Vincenzo Bellini（1901-1835）

この曲は1824年にソプラノとピアノの為に作曲された。全音楽譜出版社「ベッリーニ歌曲集」の解説（福原信夫氏）にはジラールドの詩によるとの表記があるが、他の文献を調べても作詩者不明となっている。イタリア語の持つレガートな響きとベッリーニの音楽がピッタリと合い、懐旧の情に駆られる曲になっている。ベッリーニが想定したであろうフレージング通りに演奏すると Andantino 3/4 拍子で4小節ほどを息継ぎせずに歌わなければならない。一瞬でも気を緩めると声の破綻を招くため、高度な息のコントロール技術が必要である。

陽気な水夫 L'allegro marinaro（作詩者不明） V. ベッリーニ Vincenzo Bellini

この曲は1826年にソプラノとピアノの為に作曲された。Ballata（舞曲）との表記があるように曲想の変化や緩急などの多彩な面を持った作品である。

歌劇《清教徒》より “ああ 永遠に君を失ってしまった”

“Ah! per sempre io ti perdei” da 《I Puritani》 V. ベッリーニ Vincenzo Bellini

ベッリーニは短い生涯の間に10のオペラを残したが、《清教徒》はその最後のオペラで1834年にパリの歌劇場「イタリア座」からの依頼により作曲されたグランドオペラである。初演は1835年1月25日にイタリア座で行われた。ベッリーニのオペラではバリトンが重要な役回りであるにも拘わらずアリアを与えられることは少なく、《海賊》と《清教徒》の2作品しかない。今回のリサイタルでは《清教徒》の中から第1幕でリカルドによって歌われるアリア“ああ 永遠に君を失ってしまった”を、通常はカットしてしまう後半のカヴァレッタを含めて演奏した。

「海四章」 中田喜直（1923-2000）

「海四章」は1941年に発表された三好達治の詩集「一点鐘」から選ばれた「馬車、蟬、沙上、わが耳は」の4篇に中田喜直が曲を付けて、1947年にバリトン歌手畑中良輔氏の最初のリサイタルで初演された。「海四章」に取り入れられた詩は全て三好達治が小田原に住んでいた頃に作られたもので、朝夕に海を眺めていた中で、目の前に広がる風景に自身の失われた時間、孤独感などを持っている。

第1曲「馬車」は五・七調の韻律を基に書かれており、「五・七、五・七、五、五／五・七、五・七、五、五」の韻律を活かした作曲がなされている。

第2曲「蟬」は全体を五・七調に統一し「五・七、五・七、五・七、五・七／五・七、五・七、五・七、五・七」となっている。

第3曲「沙上」は「五・七、五・七、五・七、五・七／五・七、五・七、五・七、五・七／五・七、五・七、五・七、五・七／五・七、五・七」となっている。

第4曲「わが耳は」は「五／五・七／五／七」となっている。

「五つの抒情歌」（大中恩 1924-）

- ・ ふるみち（三木露風 詩）
- ・ 想ひ出の山（浜野ふじ子 詩）
- ・ しぐれに寄する抒情（佐藤春夫 詩）
- ・ おもかげ（光井正子 詩）
- ・ ふるさとの（三木露風 詩）

「五つの抒情歌」は1947年5月31日開催の第3回大中恩作品発表会で、畑中良輔氏によって初演された「ふるみち」「しぐれに寄する抒情」「ふるさとの」が評判を呼び、「想ひ出の山」「おもかげ」を加えたチクルスとして1949年に「畑中良輔第2回独唱会」で発表された。

墓に近寄らないで欲しい（J. ヴィットレリ 1749-1835）

Non t'accostare all'urna（Jacopo Vittorelli） G. ヴェルディ Giuseppe Verdi（1813-1901）

この曲はヴェルディがオペラ作曲家として世に出る前1838年の作品で、6つのロマンツァの第1曲として作曲されている。死んでしまった男の霊が花を手向けに墓に来た女に向かって烈しい恨み言をつぶやくという内容であり、烈しい内容の詩を活かし美しいメロディーを付けてドラマ造りを行うという、将来のオペラ作品の片鱗がみえる歌曲と言える。

寂しい部屋で（J. ヴィットレリ 1749-1835）

In solitaria stanza（Jacopo Vittorelli） G. ヴェルディ Giuseppe Verdi（1813-1901）

この曲も1838年の作品で、6つのロマンツァの第3曲として作曲されている。激しい痛みに苦しんでいる愛する乙女の許へと急ぐ若者の想いを歌っている。

歌劇《椿姫》より“プロヴァンスの海と陸”

“Di Provenza il mar, il suol” da 《La Traviata》 G. ヴェルディ Giuseppe Verdi（1813-1901）

ヴェルディのオペラは低声を主役とした作品が多く、バリトンである私自身も多くの作品を勉強してきた。そのヴェルディ作品の中で唯一と言えるソプラノを主役としたオペラ《椿姫》から第2幕第2景でジョルジョ・ジェルモンによって歌われるアリア“プロヴァンスの海と陸”を通常はカットしてしまう後半のカヴァレッタを含めて演奏した。

4. まとめ

今回17年ぶりのソロリサイタル開催となり、自分自身で自覚できていない体力的な衰えがあるのではないと言う不安もあった。しかし、身体機能の研究から導き出した呼吸メカニズム調整法を利用した舞台発音発声法とベルカントな日本語唱法の習得により、体力的にも全く疲れを感じることも無くプログラムを歌いきることが出来た。また客席でも書き取れそうな程に日本語もイタリア語も歌詞が聞き取れたとの演奏評もあり、今まで行ってきた研究の方向性が間違っていなかったことに安堵した。反省点としては、多くの要素を詰め込み少々欲張りすぎたことが上げられる。その上曲目選定時

に演奏時間を少なく見積もってしまっていた為、ホール使用時間に余裕があった大分でのリサイタルは予定していた全ての曲目を演奏出来たが、東京でのリサイタルではホール利用時間の都合でベッリーニの歌曲を削らざるを得なかったことが残念であった。

リサイタルは指導をする教員自身が舞台に立つことによって学生へ見える形で演奏法の方向性を示すことを可能にする。今まではオペラ公演への出演に拘っていたが、より小さな会場での演奏を行うのは勿論のこと、技術の確認と研究の発表と言う意味でのリサイタルを定期的に行うことの必要性を強く感じた。

参考文献

- D.J. グラウト『西洋音楽史 下』服部幸三／戸口幸策 共訳，音楽之友社，1969年出版
G. ヴェルディ『ヴェルディ 歌曲集』岡村喬生 編集，服部幸三 監修，全音楽譜出版社，出版年記載なし
V. ベッリーニ『ベッリーニ 歌曲集』岡村喬生 編集，服部幸三 監修，全音楽譜出版社，1971年出版
大中恩『大中恩 歌曲集』上野一郎 発行，河合楽器製作所・出版事業部，1960年出版
中田喜直『中田喜直 歌曲集』上野一郎 編集，河合楽器製作所・出版事業部，1975年出版
大中恩『大中恩作品年譜』櫻井裕子 編集，道岡勝人 監修，大中恩 発行，2017年9月30日発行